

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

～森林に親しむ～ 第27回 那岐登山ふれあい大会を実施



森林の恵みや癒しについて説明を受ける参加者の皆様（那岐山国有林）

【岡山森林管理署】4月29日（日）に岡山県と鳥取県の境に位置する^{なぎさん}那岐山国有林にて、奈義町・智頭町観光協会主催の「第27回那岐登山ふれあい大会」が開催されました。

この大会は岡山県側と鳥取県側から同時に登って那岐山の自然に親しんでもらうとともに、山頂にてクイズや「智頭どうだん娘」とのジャンケン大会などのイベントを通して参加者のみなさんに交流を深めてもらおうというものです。

今年は両県あわせて約700人の参加者が道沿いの花や新緑を眺め、春を感じながら山頂を目指しました。当署からは4名の職員が参加し、岡山県側の登山道の途中にある「みどりの広場」にて森林教室を行いました。

那岐山国有林は水や空気といった自然の恵みや癒しの空間を与えてくれるだけでなく、檜皮（ひわだ）の採取林としても利用されています。檜皮採取の手順を、振（ぶ）り縄（なわ）や鉈（なた）など実際の檜皮採取に使用する道具を用いて身振り手振りで説明すると、参加者の方々から驚きや感心の声があがりました。

森林教室や登山を通じて、皆さんが那岐山や森林について興味を持ってくださったことを実感することが出来て嬉しく思うとともに、参加者の方々から、「がんばって」や「ありがとうね」「楽しかったわ、また来年もね」などのお言葉を頂き、森林教室を行った側の私達も満ち足りた気分で森林教室を終えることが出来ました。

那岐山山頂は一面青空で、心地良い風が吹く中、怪我も無く大変気持ちの良い登山日和の1日となりました。

用語説明

檜皮・・・ヒノキの樹皮。神社仏閣の屋根に使用される。
振り縄・・・原皮師（もとかわし）が使用する道具。2本の棒に縄を付けたもの。これを使い木に登っていく。
原皮師・・・檜皮を採取する職人。全国的に従事者が減少している。ヒノキの形成層を傷つける危険性があるため、熟練した技術が必要。



那岐山ふれあいイベントに参加の皆様

平成24年度「路網企画者研修」を実施

森林技術センター

【森林整備部 販売課】5月28日(月)～30日(水)に、森林技術センター等において、路網企画者研修を実施し、各森林管理署等から14名の研修生が参加したほか、岡山森林管理署及び森林技術センターの職員が聴講しました。

この研修は、森林・林業再生に向けて、路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト・高効率な木材生産を行っていくため、森林作業道の路線選定等に関する技術を習得することを目指すものです。

1日目は、大賀所長による森林技術センターの概要説明に始まり、細川販売課長から、森林作業道の構造、現地の地形や地質等を踏まえた路線選定、※低コストな作業システムの考え方、木材の流通・販売等について講義を受けました。



講義に真剣に聞き入る研修生

2日目は、森林作業道の路線計画案が配付され、3班に分かれて気象条件や地形・地質等についての書面の情報をもとに、より効率的に間伐を実施するための路線選定を机上で検討したうえで、岡山森林管理署管内の古谷国有林に移動しました。



机上での検討

3時間あまりにわたって現地を踏査し、森林技術センター職員の助言も受けながら、より適切な路線選定となるよう熱心に議論し、検討を進めました。



現地で森林作業道の路線選定を議論



そして、最終日には、前日に踏査した結果をもとに、班ごとに効率的な間伐を行うための路線選定をとりまとめて発表しました。

図面(地図)だけではわからなかった現地の地形等の状況を踏まえて路線を修正したり、林地保全を考慮して作業システムを検討したり、現地で採用する作業システムに応じて路網密度を変化させたりと様々な工夫が見られ、森林作業道の路線選定には、幅広い条件を総合的に

考える必要があるという問題意識を共有した有意義な研修となりました。

今後、各受講生がこの経験を活かし業務を遂行する中で、さらに技術力を磨いていくことが期待されます。

※高性能林業機械(プロセッサ・フォーワーダ等)により、木材を伐採搬出しコストを削減する『低コスト・高効率作業システム』をいう。



発表とディスカッション

地域ニュース

第63回全国植樹祭の開催(山口県)

【山口森林管理事務所】5月27日(日)、天皇皇后両陛下をお迎えして、第63回全国植樹祭が山口県山口市きらら浜にて盛大に開催されました。

山口県は文字通り森林に囲まれた地域で、古くより森林や木材が暮らしの中で大切に扱われてきました。

両陛下には、アカマツ、クロマツ、ナツミカンなどのお手植え、スギ、ヒノキなどのお手播きをしていただき、今年の開催テーマである「育むいのち彩(いさどり)の森・光る海・碧(あお)い空 燦(きら)めきの発信」を全国へ発信されました。



根強い人気のアナログ3D
(空中写真・航空写真)



木工教室大盛況

前日の第41回全国林業後継者大会と併せて、関連行事である「きららの森フェスタ」も2日間にわたって開催され、近畿中国森林管理局と山口森林管理事務所では、会場内にパネル展示ブースを設け、民有林と国有林が連携した林業後継者対策や森林共同施業団地の設定などの、当局における主な取り組みをPRしました。両日とも絶好の植樹日和となり、多くの人たちがブースを訪れました。



大盛況の職員手作りの紙芝居「日本の木を使おう」



特に、山口森林管理事務所の若手職員が作成した間伐の重要性を訴えた紙芝居(日本の木を使おう)や、手作

りの木工品「もっくん」のプレゼントなどが、子供たちに大人気でした。

この全国植樹祭等のイベントを通じて、地球温暖化等の問題、適正な森林管理や環境保全の重要性とともに、それらに対する国有林の真摯な取り組みが、参加された皆様に再認識して頂くことができました。

～野生鳥獣と人が共生する森づくり～ びわ湖の森の生き物シンポジウムの開催

【滋賀森林管理署】5月27日（日）に、滋賀県近江八幡市で、びわ湖の森の生き物シンポジウムが開催されました。

主催は、びわ湖の森の生き物の生態を幅広く滋賀県民に紹介し、琵琶湖から源流域までの生態系の一体的な森林保全活動の発展を図ることを目的に設置された「びわ湖の森の生き物研究会（以下、「研究会」という。）」で、滋賀森林管理署は後援となり、伊崎国有林のフィールド提供及びパネリストとして参加しました。

午前中は、カワウのコロニー（集団営巣地）のある伊崎国有林（伊崎半島）で現地研修会を行ったところ、子ども5名を含む総勢27名の参加があり、カワウとコロニーの様子について望遠鏡や双眼鏡で遠望したり、森林のカワウ被害状況、被害跡地に植栽した樹木の状況を観察しました。



カワウの糞によりヒノキが枯死（伊崎国有林）

午後からは、総勢54名の参加により、講演及び話題提供とパネルディスカッションが行われ、講演及び話題提供では、研究会の亀田佳代子氏から「森によって異なるカワウと人とのさまざまな『共生』」と題して基調講演があり、続いて同じく研究会の高橋春成氏から「人の関与と野生動物」、寺本憲之氏から「ヒトからの人圧による野生動物との共生」、青木繁氏から「シカの食害がもたらす生物多様性の破壊」、また、滋賀森林管理署の倉石流域管理調整官から「伊崎半島（伊崎国有林）におけるカワウ被害と森林管理」と題して話題提供を行いました。

次に、パネルディスカッションでは、びわ湖の森における野生鳥獣による様々な被害や生態系への影響に

ついて、なぜ、そのような影響が発生したのか、人と野生鳥獣が共生するために必要なことなどについて意見交換を行いました。

最後に提言として、人と野生鳥獣がマイナスの『共生』をプラスの『共生』関係に転換するためには、まずは被害が増



パネラーの方々（右から3番目が倉石流域管理調整官）

大している鳥獣害や森林生態系への甚大な影響が懸念されるシカの食害に対しては科学的な根拠に基づいて個体数を適正管理するとともに、抜本的な問題解決を目指して、今一度、森林資源の価値を見直し、人がそれを積極的に利用する社会システムを地域ごとに構築し、速やかに実践することが必要であるとまとめ、シンポジウムを終了しました。

手作り「森の案内板」を設置 ～「日本触媒」水源の森～

【兵庫森林管理署】5月19日（土）、赤西国有林（宍粟市）で、「法人の森林」協定を締結している（株）日本触媒が森林整備活動の一環として、活動の案内場所を示す「森の案内板」を手作りで作製し、出来上がった案内板を活動広場や遊歩道沿いに設置しました。

最初に川畑兵庫森林管理署長から「貴社の新入社員研修でも当地を活用して頂いた。森林の中での取組は大変喜ばしい



川畑署長による歓迎挨拶

こと。これからもこういった取組を続けて頂きたい。」と歓迎挨拶がありました。

この日は、日本触媒の社員やその家族等総勢24名が参加し、5班に分かれて、兵庫森林管理署職員と「ひょうご森の倶楽部」会員の協力を得ながら7枚の案内板を作製しました。

案内板は、板の表面を磨き、ガスバーナーで焼いて木肌に焦げ目を付けた後、たわしでこすり、白色ペンキで文字入れを行いました。案内板の文字ネーミングは、日本触媒が事前に社内募集を行ったものが用いられました。中には絵柄等も入れる等工夫を凝らした



看板文字入れ作業

オリジナルな案内板となりました。

作り始めてから約2時間半程度で案内板が出来上がり、それぞれの場所へ運び、丸太杭で固定し設置してきました。参加者は、完成した案内板を見ながら、各人がその出来映えにご満悦の様子で、案内板の前に全員で記念写真を撮りました。



案内看板設置状況

最後にもう一度、設置した案内板を確認しながら遊歩道を散策した後、「ひょうご森の倶楽部」の福田会長から、「案内板のその後の状態を是非見に来て下さい。」と挨拶があり、予定していた日程を終了しました。



参加者全員で記念撮影

民国連携による山地災害 未然防止対策の取組

【和歌山森林管理署】昨年、和歌山県下に大きな爪痕を残した台風12号。甚大な被害にあった各地では懸命な復旧工事が続いています。しかし、奥山の山地崩壊等はまだまだ復旧の目途が立っていないのが現状です。

そんな中、5月29日、当署管内の那智山国有林（那智勝浦町）で、署職員のほか那智勝浦町職員、地元ボランティアのご協力をいただき、総勢19名により、約200mに亘り発生したクラック（裂け目）にブルーシートを設置しました。



署・町・ボランティアによるミーティング



クラック（裂け目）の様子



クラックへのブルーシート設置

これは今後の梅雨期を迎えるにあたり、本格的な復旧工事を行うまでの措置として計画したもので、現地まで歩いて2時間、作業に2時間を要し、疲労の度合いも大きかったものの、山地災害の未然防止と那智山一帯の早期の災害復旧を誓った、意義ある取組となったところです。

お知らせ

平成24年度 森林・林業交流研究発表会のご案内

1 目的

現場業務の実行を通じて得られた森林の整備手法の確立、森林環境教育支援、民有林・国有林が連携した森林・林業の再生に向けた取組や、日常業務を通じて得た国民視点に立った創意工夫の成果等を発表することにより、これらの成果の普及を図るとともに、研究課題への取組を通して、人材育成に資することを目的としています。

2 内容

森林の効率的な整備及び適切な保全を図るための技術の確立、安全衛生意識の高揚、効果的な業務運営、国民参加の森林づくりの推進、NPO等と連携した自然再生への取組や森林環境教育支援のあり方、国民視点に立った業務の創意工夫に関するもの。

また、業務における調査・実証による成果や成果の普及に関するもの。

3 参加資格

- (1) 近畿中国森林管理局の職員
- (2) 近畿中国森林管理局管内の府県及び市町村の職員
- (3) 近畿中国森林管理局管内の森林・林業関係団体等の職員
- (4) 近畿中国森林管理局管内の教育機関の生徒・教職員等
- (5) 上記(1)～(4)と共同で研究する者

4 日程及び会場

- (1) 日 程 平成24年11月27日(火)、28日(水)の2日間
- (2) 会 場 近畿中国森林管理局 大会議室

5 優秀発表者の表彰

発表内容について審査を行い、優秀な発表者を表彰します。

6 発表の申込み・問い合わせ先

- (1) 発表の申込み

所定の用紙により作成の上、平成24年8月27日(月)までに申込。

(申込先) 近畿中国森林管理局 指導普及課 宛

森林のギャラリー（局庁舎1階）

【7月の展示スケジュール】

6/18～6/29 「富士山の世界文化遺産の登録に向けて」

【山梨県 大阪事務所】

7/2～7/12 「もりのボランティア活動」

【高槻里山ネットワーク】

7/13～7/27 事業紹介 親子で作る学習机

【高島森林体験学校】